

ふれあいKAWACHIネット



学校と地域の連携推進
モデル事業 特別号

発行：河内教育事務所

ある小学校のできごと（実話エピソード!!）

地域と連携したいという校長が赴任したので、高齢者が年に3回、学校に鎌を持って集まり、草刈りをする習慣になりました。

校長が替わってもボランティアは学校に行き草刈りをしていました。新しい校長は、「だれだ、勝手に敷地内に入って草刈りをしているのは」と怒鳴りました。そして草刈りはしなくなりました。

校長が替わって、地域と連携したいということで、草刈りが再開しました。

校長が替わって、草刈りをしていると、「皆さん、ボランティア保険に入っていますか？入っていない人は敷地内に入れませんよ」と言いました。そして草刈りはしなくなりました。

新しい校長が来ました。教育委員会からはコミュニティ・スクールに・・・。



地域学校協働活動の実践を！ 「地域とともにある学校」へ

令和2年度から実施している「学校と地域の連携推進モデル事業」の成果として、「地域学校協働活動」を実践することにより、次のメリットがあることが分かりました。

地域学校協働活動を実施することにより、**地域の教育力が向上する**（**地域住民のつながりが深まる**）。



地域の教育力が向上すれば、子どもたちにとって体験活動の機会が増えるとともに、地域資源・地域人材を知る機会となり、

○生きる力の育成 ○地域への愛着形成 ○学力向上基盤の確立 ○社会性の伸長の効果が期待できる。学校にとっても、

○地域への理解深化 ○地域との信頼関係構築 ○学校教育活動の充実を図ることができる。成熟した地域が創られることは、子どもたちの豊かな成長にもつながる。

注意点 ・**新規事業を開発しない**（管内の学校は十分に活動を行っているため、既存事業の充実を図る）。
・地域の多くの人を巻き込み、責任と覚悟を自覚させながら、**迷惑をかけて事業を実施する**。
汗をかいて、恥かいて、頭かいて、進める！

地域人材と接するときの心構え

実話エピソードのようにならないために、次のことに注意したいものです。特に管理職だけでなく、学校として教職員全員で意識することが大切になります。

最も大切なことは、活動する人の **心や気持ち**

地域コーディネーターやボランティアなど地域の人と接するとき、信頼関係を構築するためにも、次の5点について気配りをお願いします。

- ①**気持ちの良いあいさつ**を心がけてください。そして、「お世話になっています」や「この前の教材とても良かったです」など、ひとこと付け加えると信頼関係の構築につながります。
- ②地域コーディネーターやボランティアが活動している時には**顔を出して、感謝の気持ち**を伝えてください。例：「学習効果が上がっています」「助かりました」「感謝しています」
- ③地域コーディネーターやボランティアを、朝の打合せの時間などを使い、**全教職員に紹介**してください。そうすることで地域の人が見られることがなくなります。
- ④先生方の**教育方針や考えを、地域コーディネーターやボランティアに伝えるほか、活動者の気持ちや思いを受け止めて**ください。相互理解は信頼関係につながります。
- ⑤**子どもたちに**地域の方々の助けで、学校が運営されていることを話してください。



本情報紙に関する問合せ

河内教育事務所ふれあい学習課 TEL 028-626-3183 E-mail: kawachi-fureai@pref.tochigi.lg.jp